

ワクチン予防接種 確認書

本日接種するワクチンで予防できる感染症

- ☐ **犬ジステンパー** (病原体: 犬ジステンパーウイルス)
伝播力が強く、発熱、呼吸器症状、消化器症状、神経症状などを引き起こし、子犬では死亡率の高い感染症です。
- ☐ **犬パルボウイルス感染症** (病原体: 犬パルボウイルス)
激しい下痢、嘔吐を起こし、子犬では突然死を起こすこともあります。伝播力が強く、子犬では死亡率の高い感染症です。
- ☐ **犬伝染性肝炎** (病原体: 犬アデノウイルス1型)
肝炎のほか下痢、嘔吐など多様な症状を引き起こし、軽度なものから致死的な場合まであります。
- ☐ **犬アデノウイルス2型感染症** (病原体: 犬アデノウイルス2型)
犬の呼吸器症候群(CIRD)の原因の1つで、他のウイルスや細菌と混合感染することにより症状が重篤になります。
- ☐ **犬パラインフルエンザウイルス感染症** (病原体: 犬パラインフルエンザウイルス)
犬の呼吸器症候群(CIRD)の原因の1つで、他のウイルスや細菌と混合感染することにより症状が重篤になります。

-
- ☐ **犬レプトスピラ病 (カニコーラ / イクテロヘモラジー)** (病原体: レプトスピラ菌)
急性の腎障害や肝障害を起こし、死に至ることもある感染症です。ネズミや野生動物の尿とともに病原菌が排泄され、川や水たまり・土壌から感染します。人にも感染する人獣共通感染症(ズーノーシス)です。

ワクチン接種後の注意点および副反応について

- ☐ 本剤の投与後、まれに一過性の疼痛、元気・食欲の不振、下痢または嘔吐を示すことがあります。
- ☐ 過敏な体質の犬では、まれにアレルギー反応〔顔面浮腫(ムーンフェイス)、掻痒^{じんましん}、蕁麻疹等〕、またはアナフィラキシー反応〔ショック(虚脱、貧血、血圧低下、呼吸速迫、呼吸困難、流涎、ふるえ、けいれん、尿失禁等)〕が起こることがあります。アナフィラキシー反応(ショック)は、ワクチン接種後数分～60分以内に発現する場合があります。
- ☐ アナフィラキシーが発生した場合すぐに処置が行えるよう、可能であればワクチン接種後60分程度は安静にして様子を観察し、異常が認められたらすぐに病院で処置を受けられるようにしましょう。
キャリーの中に居ると様子がわからないことがあるので時々状態をチェックしましょう。
- ☐ その他の症状(顔面浮腫や嘔吐等)はアナフィラキシーより遅れて発現することがあります。
- ☐ ワクチン接種前・接種後は激しい運動やシャンプーなど体力を消耗したりストレスのかかることは避け、2～3日は安静にし、異常があればすぐに獣医師の診察を受けてください。また、真夏などの蒸し暑い時期は空調管理にも配慮してあげましょう。
- ☐ 本日のワクチン接種の内容およびリスク、接種後の注意点について説明を受け、その内容を確認いたしました。

記入日： 年 月 日

サイン： _____